

1. 新世言「この世は不思議に満ちている」 丸山敏秋 倫理研究所理事長 65歳 (P10~13)

どうして人間だけ頭髪が伸びるのだろう？ 熱心に考えもしないから、不思議を不思議とも思わないのが、我々凡人なのであろう。「火事場の馬鹿力」など、人間はどれほどの能力を秘めているのだろうか。

さまざまな不思議の中でも、自分という人間がこの世に存在して、いつか消えていくことが切実。この根源的に不可思議なことを、普段は括弧に入れ、さも当たり前のような顔をして我々は生きている。人は自分が死ぬことを知っていて、それを考える唯一の動物です。本当のところは誰もわからない。目を大きく開いて世の中の不思議を見つめ、驚きの感覚を磨くと、人生はより豊かになる。心臓は勝手に動き、呼吸は繰り返えられる。体を酷使すると疲労が高まり休めの合図が出る。命の不思議に対し、スナオに頭を下げて合掌できるようにになりたい。

2. 実践の軌跡「世の中に恩返しを。亡き夫と息子に力強く誓う」伊藤敏子さん 77歳 岩手県 (P14~23)

16年前、突然夫が「今までありがとう。言葉が話せるうちに感謝しておきたい」と言いました。翌朝、脳卒中で夫(65歳)は倒れ、意識が戻らないまま1か月後に亡くなりました。それから2か月後、悪性リンパ腫・余命5年と診断された。このまま人生を終わりにたくない思いに突き動かされ「おはよう倫理塾」の会場に向かいました。体力が落ち、二階の会場へは手をついて這い上がる状態でしたが、徐々に良くなり喜びと感謝でした。しかし6年前に、悪性リンパ腫が再発悪化。抗がん剤の治療をすればするほど苦しく、死んだ方がましと大きな声で泣きました。入院中、毎朝5時から万人幸福の葉を読み、絶対希望を失わないぞと頑張りました。振り返ると、私は全て思い通りにしないと気が済まない我儘でした。息子を抱きしめた記憶もありません。夫と息子の寂しさを知り、息子には「今まで本当に悪かった」と詫言することができました。このことを気づくための病気だと思えました。その息子が1年半後に、50歳で急逝。世のため人のために働いていた息子を誇らしく思え「私の自慢の息子だよ」と語りかけました。H29年10月、癌が完治したと診断。夫と息子の様に人世のために働きます。

3. 実践の軌跡「モットーは、いつも明るく。事業で地域貢献」梶原哲夫さん 74歳 山梨県 (P24~33)

平成11年、新聞広告でモーニングセミナーを知り参加、「この勉強をしていると、人も会社ももっと良くなる」と思い即入会しました。H15年に業績好調の矢先、脳幹梗塞になり右半身麻痺、ろれつが回らず半年間の入院生活、半年の通院加療。その間、万人幸福の葉の17箇条が心に響き、どんな時でも明朗が大切と学びました。「信は動いて愛となる」「和のもとには愛である」これからも妻や社員と共に、お客様を大切に地域貢献致します。

4. 特集「親が変わる・子も変わる」子育て中の両親をサポートする「子育てセミナー」各地で開催 (P34~49)

①自主性を引き出す5つのヒント (P42.43)・強制しない・勉強は楽しいものと伝える・ダメではなく、こうすればどうかな・褒めるより「感心する」・今から5分間でいいからやってみよう。前向きな働きかけを。

②自分で考えて行動する、自立の精神を培うために (P44~49)・自立できない中高校生が増えている・3歳までの親子関係が影響している・1歳まではスキンシップ・2,3歳は自我が表れるので受け止める・親から認められて育った子供には自己肯定感が培われる・親子で共有する体験が重要・地域で子育てサポート。

5. 人の喜びは、我が喜び。皆が幸せになる経営を目指す 森本宏研究員 46歳 (P50~53)

A社長は、十数年前から年に一度、菓子折りをもって全社員の自宅を訪問しています。7年前のクリスマスの夜、小1の娘と二人暮らしのB氏のアパートを訪ねた。B氏は不在で娘が毛布にくるまって留守番。社長はたまたま、クリスマスケーキとプレゼント、ホカホカのお弁当を買い、その子のもとに走って戻り「お父さんから可愛い娘に届けてほしいと頼まれた」と言って手渡した。翌朝も一番早く出社したらB氏が出社して挨拶の後無言。社長が、娘さんに勝手なことをして申し訳なかったと詫言たら・・・今、B氏は専務取締役にまで昇進しました。